

平成20年度 兵庫県立姫路別所高等学校 学校評価報告書

1 教育方針と本年度の重点目標

教育方針	校訓「友愛、責任、自立」の精神の涵養を基本として、「和して同ぜず」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた人格、豊かな心とたくましく生きるを育成する。
------	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 心の教育の推進と人権尊重の精神の育成に努める。</li> <li>2 基本的生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、主体的に生きる力を育成する。</li> <li>3 保護者・地域との連携を深め、開かれた学校、信頼される学校づくりを推進する。</li> <li>4 教員の資質と指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。</li> </ul>
------	--

3 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校自己評価シート」資料を事前に配布されたのは良かった。</li> <li>・「学校自己評価シート」質問事項について、項目が整理されていないところがある。今後とも、「生徒の夢を実現する」、「地域に信頼される」学校づくりをということを中心にした見直しを。</li> </ul>
--

4 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「素顔の学校」という考え方が素晴らしい。学校の自慢だけではなく、「自慢できないところを示してそれでも好きになってください」という考えは素晴らしいと思う。</li> </ul>
---

2 学校自己評価結果 (A よくできた B できた Cあまりできなかった D できなかった)

分野	評価項目(★は本年度の改善項目)	評価	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善の方策についての評価
生徒指導	生徒指導の方針を生徒・保護者で共有し、指導の徹底を図る。	B	電話連絡や三者面談等を通じて、保護者と生徒指導の方針を共有し、連携して指導できるように努力した。 指導部・学年が連携し、SHR・授業・登下校等で継続的に指導を続けた結果、規範意識に改善が見られた。 外部講師を活用して、情報モラルや性に関する講演会など社会の変化に対応した生徒指導を行った。 教育相談に関しては、生徒・保護者に対して面談等を通じて積極的に紹介し、必要に応じて利用を勧めた。 遅刻の多い生徒を含め、心のケアが必要な生徒に対して、奉仕活動等を通じて改善に向けてのサポートを行った。 生徒会役員の定期的な会合を設ける、任期を1年間にのぼすなど生徒会活動の活性化を図るための工夫を行う。 部活動の加入率を高めるために1年生では全員加入させるなどの方策を検討する。	・別所生徒が通行禁止となっている農道通過は地域高齢者から0人にと高い評価を得ている。反面、登下校時には自転車が道幅いっぱい広がっている。 ・部活動については4月全入はいいが、9月に減ってしまうのはどうか。 地域とのコミュニケーションをとる意味でも地域の施設を利用した「同好会」や「愛好会」を作ってはどうか。 ・「特別活動・生徒会」で「自主性」がないというのが気になる。生徒会役員任期を1年にした方が仕事の内容がよくわかり「自主性」に繋がるのではないか。
	★ルール(服装・頭髪)やマナー(通学マナー)等を遵守させ、規範意識を育てる。			
	外部講師等の活用により、情報モラルなど社会の変化に対応した指導を行う。			
	★生徒・保護者に対して、教育相談に関する情報を提供し、心の教育を充実する。			
	生徒指導部を中心に個別面談や奉仕活動など心のサポートを継続的に行う。			
	★生徒会を活性化させ、生徒中心による学校行事等の運営を図り、自主・自立の精神を育む。			
部活動を活性化し、調和のとれた人格を育成する。				
進路指導	進路指導部と学年が連携し、進学・就職に関する有効な情報を共有し、生徒・保護者に提供する。	B	進路指導部と学年が連携し、有効な進路指導を行えるように定例の進路部会の開催を検討する。 進路指導部と学年の情報交換の場を増やし、生徒・保護者へ有効な情報が伝わるようにする。 ホームルームや総合的な学習の時間を利用して、生徒の興味・関心、適性に応じた進路ガイダンスを行った。 卒業生や地域の専門学校の外部講師を活用した進路別学習会を実施し、生徒の進路意識を高めた。	・クリエイター系の専門学校など、給与的にも良いのでどんどん行かせてやってほしい。
	ホームルームや総合的な学習の時間を利用して、主体的に進路選択ができる能力を育成する。			
	外部講師による進路講演会の活用やオープンキャンパス等への参加を促し、進路意識を高める。			
	進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。			
学習指導	★教員が研究授業や授業アンケート等を活用して、指導力の向上を図り、「わかる授業」づくりに努める。	B	進学補習や就職指導(就職模試や面接練習等)など生徒の進路に応じた効果的な進路指導を実施できた。 授業改善を目的とする各教科の研究授業(教員間で相互評価)を全校的な取り組みにしていく。 授業展開の工夫や生徒の実態に応じた補充・補習などを通じて、学力の定着を図った。 体験学習については、現状に満足することなく、相手方の意見や意向も踏まえ、内容をさらに充実させる。 今後は資格取得の合格率を上げるとともに、資格取得に意欲的に取り組めるような指導のあり方を工夫する。 予算的に可能であれば、外部施設を利用するなど芸術を鑑賞する機会を増やし感性豊かな心を育む。	特になし
	少人数授業や習熟度別授業、補習や補充などを実施して基礎学力の定着を図る。			
	ボランティア実践やふれあい育児体験など、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。			
	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、学び続ける意欲と態度を育成する。			
	芸術鑑賞会など芸術文化に関する行事を開催し、感性豊かな心を育成する。			
学校組織	進路・生徒指導・人権など学校の諸課題に関する教員の研修会を実施し、指導力の向上を図る。	C	教員の意欲や本校の実態に即した実践的な研修を企画し、能力の向上を図る。 マニュアルの内容について、訓練や研修を通して生徒・職員に周知徹底を図っていく。 各部・各学年の協働体制を更に進め、指導体制を改善していく。 教員一人一人が意欲を持って仕事に取り組めるような適材適所の人員配置と仕事の分担について検討していく。 目標の実現に向けて、計画→実行→評価→改善のサイクルを定着化させていく。	特になし
	危機管理マニュアルを作成し、実践的に対応ができるように訓練など防災・安全教育の充実を図る。			
	家庭や地域、また病院、保健所、警察署、消防署など関係機関と連携した危機管理体制を推進する。			
	各部や各学年の連携による協働体制を構築する。			
	★役割分担の明確化、適正な人員配置など機能的に組織化し、学校の活性化を図る。			
	★前年度の課題や学校の重点目標を踏まえ、学年・学級で目標を立て、実現に向けて努力する。			
保護者・地域との連携	PTA総会、学校ホームページ、学年通信などを通じて、学校の情報を積極的に保護者に発信する。	B	学校HPや学年通信を通じて、生徒の活躍を発信できた。HPについては、内容の充実を図っていく。 様々な機会を設けて、保護者、地域に学校を開き、「素顔の学校」を知ってもらうように努力した。 環境整備など学校と地域が交流を深めることで、情報提供など地域が学校に協力してくれる機会が増えた。 学校評議員や学校関係者評価委員に学校の情報を伝え、指導・助言を受けて学校運営の改善を図っていく。	・学校行事等、メール配信して連絡したら良いのではないか。 ・授業公開は参加者が少ない。時期を考えてはどうか。PTA総会を利用してはどうか。 ・PTCA環境整備事業は多くの参加者を得て成功した。今後とも事業の継続を。
	授業公開、オープンハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。			
	通学マナー指導や環境整備活動、学校行事など保護者・地域と連携して学校づくりを推進する。			
	学校評議員会の意見や学校関係者評価を受け、それを公表し学校運営の改善を図る。			

5 評価項目ごとの学校関係者評価